

# 三上 智成（みかみ・ともなり）

## 1、プロフィール

大正の初期から牧水系の歌人として活躍をした。とくに、同系列の「樹焰」の発行人となり、「黎明」や「樹氷」の同人として、また「創作」や「潮音」誌上などで活躍した歌人。

<生没>

1896(明治 29)年4月 27 日 ~ 1976(昭和 51)年5月 16 日

<代表作>

歌集『樹焰』

<青森との関わり>

中津軽郡駒越村(現岩木町)に生まれる。県立弘前工業学校卒業。県庁に勤務して青森へ転居し、後に青森工業高校教師となる。

## 2、作家解説

歌人。明治 29 年に中津軽郡駒越村(現岩木町)滝口に生まれた。本名伊作。玉成高等小学校から県立弘前工業学校本科建築科に入学し、大正3年に卒業した。同5月、第8師団建築工事現場見習として勤務しながら短歌を作り始める。

明治の末から大正の初期にかけての本県の歌壇は若山牧水の「創作」系が主流であったので、ペンネーム智成を用いて積極的に「創作」や「潮音」などの中央誌に投稿した。特に大正5年に青森県庁に勤務して青森へ移住したのをきっかけに、「暮笛」を改題した「樹焰」に参加し、やがてその編集を担当するようになる。

大正8年に「独白」「素描」「樹焰」が統合し、淡谷悠蔵を中心にした「黎明」が創刊されたが、昭和5年に「黎明」が廃刊されるまで同人として活躍した。

大正 12 年、松尾チヨと結婚し一男二女をなしたが、昭和9年にチヨ逝去。その後長谷川あいと再婚して三男一女を設けた。戦後の21年、県立青森工業高等学校に勤務し、やがて建築科長となり、県建築士審議会委員などを歴任した。

昭和5年、小説、詩、短歌、などの各分野を糾合した文芸誌「座標」が発刊された。「黎明」は発展的に解消し、「座標」に移った人々も多かったが、三上は終始沈黙を守り、やがて船水公明の雑誌「樹氷」に参加した。

若い頃から加藤東籬や和田山蘭ら牧水系の先輩に直接に指導を受けたが、昭和28年に結成された山蘭を囲む仲間「八人会」の主力メンバーとなる。その歌の多くは、社会や人事を力強く歌ったものもあるが、家庭や自然を静かに詠む傾向のものが多く、奥行きが深い歌が多い。51年5月16日に逝去したが、その直前の5月1日に、友人や子供らの力によって編まれた歌集『樹焰』が世に出た。

### 3、資料紹介

#### ○歌集『樹焰』

図書

1976(昭和51)年5月1日

185mm×135mm

三上智成の歌集。昭和6年から、同47年までの短歌576首を収録している。序文は淡谷悠蔵で、林柁二郎、白戸正雄、船水公明ら八人会と工藤金次郎ら友人の跋文があり、後記は長男三上昌宏。題字は師・山蘭の次男の現が書いた。